

南

区の陸上自衛隊真駒内駐屯地を主会場として実施した「札幌市総合防災訓練」には、防災関係機関や事業所、地域住民など六十団体、二千百人が参加しました。自治体が主催する総合防災訓練が、自衛隊駐屯地内で行われたのは全国でも初めてです。

午前九時三十分、石狩支庁中部を震源とする地震が発生し、札幌では震度六強を観測。被害は甚大で、南区内では火災が随所で発生し、ライフラインも停止。長雨の影響で土砂災害が起こり、道路が寸断され孤立地域が発生したとの想定で訓練を実施しました。

訓

訓練の重点実施項目は、「ヘリコプターによる孤立住民救出・搬送訓練」と「住民主体による発災対応型訓練」の二点です。

「ヘリコプターによる孤立住民救出・搬送訓練」は、南区の地域特性（山やがけ地が多いなど）から土砂災害が発生し、定山溪地区で多数の住民が孤立したとの想定で、自衛隊ヘリコプターやドクターヘリが出勤し、住民の救出や負傷者の搬送訓練を行いました。

「住民主体による発災対応型訓練」では、会場内に設置された仮想街区で、住民各自がその場の状況を判断しながら対応し、避難所を目指しました。



▲僕たちも協力します。頼もしげに見守る上田市長の前で、バケツリレーで消火訓練をする澄川西小学校の児童

※ドクターヘリ

緊急専用の医療機器を装備し、救急医療の専門医師と看護師が搭乗した専門ヘリコプター。救急現場で患者に初期治療を行い、救命救急センターに搬送するまでの間、救命医療を行います。



ビル火災や土砂災害時などには、消防局や自衛隊などの防災関係機関による救助活動は心強い味方。しかし、火災や建物の倒壊が同時に多数発生したり、道路が寸断されたりすると、現場への到着が遅れ、速やかに救助活動が行われない場合もあります。

そんなとき、もし隣家から出火したら、もし家族がけがをしたら・・・

そのためにも、自主防災の重要性を認識し、積極的に訓練に参加することが大切です。

